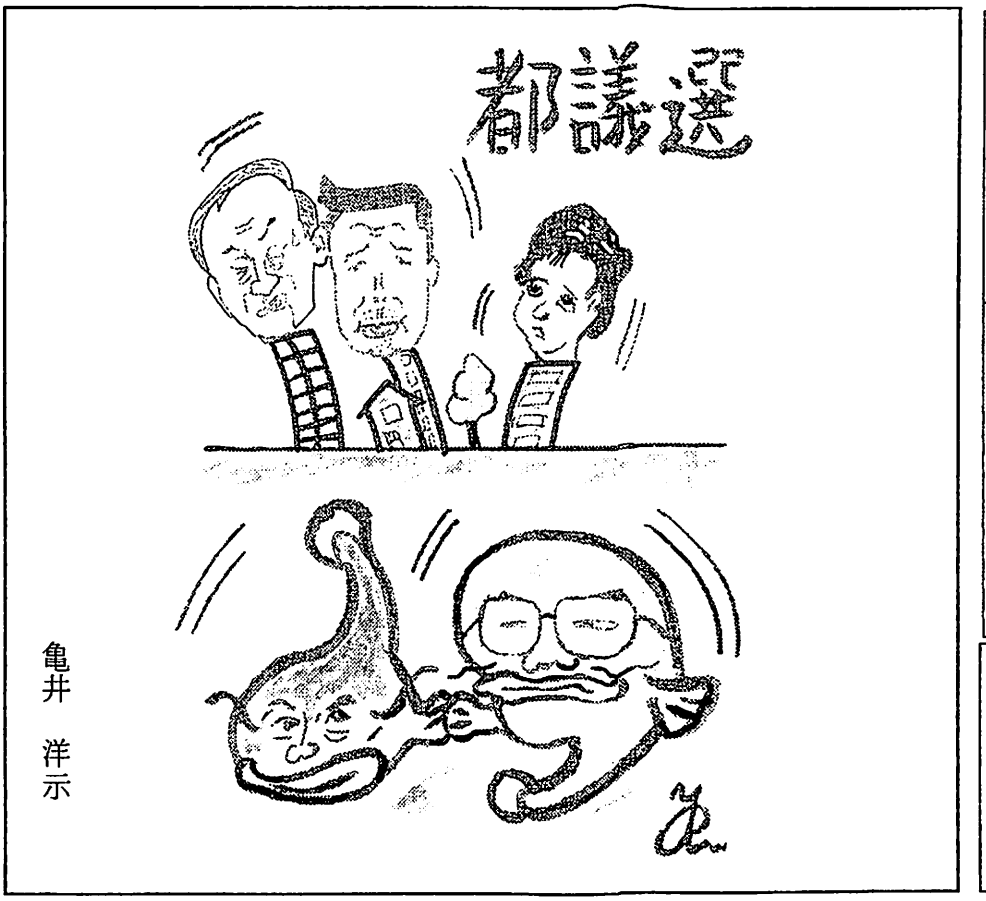

亀井　洋示

不屈

No. 565 附録
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
編集発行人　田中幹夫
〒113-0034　東京都
文京区湯島２－４－４
平和と労働センター・全労連会館
電話　03(5842)6461
FAX　03(5842)6462
E-mail
chian@bz03.plala.or.jp
頒価　50円

兵庫版 No.448
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
兵庫県本部
〒650-0022　神戸市
中央区元町通６丁目6-12
山本ビル　国民救援会内
TEL(078)351-0677
FAX(078)371-7376

都議選に続き、兵庫県知事選でも「地殻変動」を起こし、総選挙での審判へ

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟
兵庫県本部会長　岡　正信

都議選の結果は、自公56議席で過半数66議席に遠く及ばず、自民の議席は過去２番目に少ない33議席、公明は23議席で全員当選を果たしたものの、推薦した自民候補が各地で苦杯をなめている。この選挙結果に示されたのは、コロナ感染拡大のもとでの五輪・パラリンピック開催に固執し、コロナ対策で右往左往・無策ぶりを示し、沖縄の米軍基地建設、学術会議の任命拒否問題での強権ぶりに対する都民・国民の審判である。

一方、日本共産党は「都議選３連覇」の快挙、立憲民主党は議席がほぼ倍増した。日本共産党と立憲民主党は選挙協力によって議席を前進させた。野党の選挙協力が相互の議席を増やし、自民党を追い詰める大きな力に。この結果を見て、自民国会議員の一人は「大きな地殻変動がおきている」と語り、別の議員は「(衆議院選挙は)首相の顔を代えて勝てるという甘いものではない。自民党全体への不信感」と語っている。総選挙での市民と野党の共闘の発展への大きな成果となった。

兵庫県知事選では、自民党主導の「オール与党体制」が崩れ、その結果、自民党県政の後継者争いの２候補対「県民共同」金田峰生候補の対決を軸に闘われている。都議選の結果を通じて「大きな地殻変動がおきている」と自民党国会議員が衝撃を語ったが、この兵庫でも、東京都への４度目の「緊急事態宣言」のもとでのオリンピック強行の蛮行に対する県民・国民の審判を下そう。

第40回県本部総会に向け1100人達成を！

総選挙で、同盟要求実現できる国会をつくろう！

県本部第39期　第12回常任幹事会報告

第12回常任幹事会が7月8日開催されました。第40回総会議案の骨子、総会成功への7・8月活動の重点、総選挙にむけた活動方針などが話し合われました。

【第40回県本部総会】

総会は8月29日（日）午後2時から、神戸市勤労会館308号で開催されます。コロナ禍での開催という点から、県役員、支部代表者、次期役員候補などを代議員とします。

総会決議案は、情勢、運動と組織建設の課題と方針、総選挙方針などを柱とします。また、1000人県同盟に相応しい規約の整備・改正も検討します。

【7・8月活動の重点】

6月の会員拡大は11で会員数は1091人となりました（目標の1100人まであと9人）。新年度の署名も始まっています。「民主主義の日本めざして―川崎・三菱大争議100年」パンフを渡し、入会を呼びかける対話での広がりが拡大の力になっています。全支部が入会者を迎え、達成をめざします。県母親大会での署名呼びかけなど強めましょう。

【兵庫県知事選挙】

7月18日投開票です。「憲法県政の会」の「金田峰生さん」への支持を訴え、勝利をめざします。支部での推薦を強めます。

【映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」上映運動】

全会員に映画のチラシをとどけます。公開は来年の3月15日からです。支部での上映計画を立てていきましょう。

【会議日程】

第12回幹事会は、7月24日（土）午後1時30分から、長田区の「平和と労働会館」で行います。第13回常任幹事会は、8月5日（木）10時30分。第31回「全国女性交流集会」は、10月24・25日（日・月）に行われる予定です。

・　・　・

第11回幹事会は6月23日開かれ「同盟躍進期間」の総括、支部・地域活動の交流を行い、第40回県本部総会の開催を決めました。第11回常任幹事会は6月28日開かれ、6月活動推進、規約改正問題などについて討議しました。

《6月の入会者》

氏名	支部・地域	紹介者
松下修治	宝塚	田中隆夫
小西千代	明石	益田晴美
吉川正和	東灘	宗田瑛子
岩永英明	西区	岡　正信
荒木芳樹	宝塚	岡　正信
深町直也	赤穂	岡　正信
吉岡健次	川西	岡　正信
宮崎信敏	西宮	田中隆夫
乾久美子	尼崎	乾　信行
	・築谷時雄	
則長訓江	長田区	井上　豊
	・田中隆夫	
	・喜田照和	
雨松康之	淡路	鎌塚俊子

1978年5月31日NHK/教育 放送=DVD

「昭和回顧録　川崎三菱・労働争議 1921年・神戸」上映促進のために

1978年、この番組を視聴された三木米道さん（当時現役の川崎重工勤務の労働者。その後、新開地に新事務所を構えた日本共産党県委員会1Fで1区後援会事務局長。）と兵庫県劇団協議会事務局長による「しんぶん赤旗」紙上において、感想が以下の通り、掲載されています。

「57年前の創意ある闘い」

三木米道　川崎重工神戸工場勤務

『あらためて先輩のたたかいの偉大さをおもいおこされるものだった。

画面に数秒あらわれた当時の争議指導者の一人青柿善一郎氏（川崎の旋盤工、数年前に病没）は、生前つぎのように思い出を語ってくれた。

「当局の弾圧が予期されたので、サボタージュという新しい闘争方法を川崎の労働者が採用した。フランスの新しい闘争形態を川崎の労働者が採用した。フランスの労働者がやっているということを新聞記者に聞いて、〝それをやろう〟ということになったのだ。」

（大争議では、）「必勝祈願の集団神社参拝」、弾圧を許さないために在郷軍人の労働者が「天皇から賜った」軍服を着用して行進した。などの創意が生まれたという。2千5百人分の赤飯、4千個のパン、二トンの米が商店から寄贈されたとの記録もある。

このフィルムが井戸の中に保存されていたという解説は初耳だった。湊川神社の何年祭かを記録するため来神していた日活の撮影隊が記録したと私は聞いている。

あの大きなデモが通過した同じ通りを今も川崎の労働者は通勤している。57年まえの先輩労働者のデモは、創意ある闘いの貴重なことを示唆していると言えよう。」

「争議参加者の喜びを感じる」

新木祥之　兵庫県劇団協議会事務局長

この番組で紹介された映画（「灯をともした人々」－大正10年川崎・三菱大争議の記録）を何回か見たが、そのつど時代の躍動，芽を吹きだしたばかりの運動のエネルギーを強く感じてきた。サイレントの画面の奥から、歓声や太鼓に合わせえた革命歌が響く思いがしたものだった。

去る4月末に「あゝ八月の陽の如く」（大正10年川崎・三菱大争議）を10年がかりで創作上演した私たちは、創作の過程で見落としていたものはないかと、この番組を心待ちにしていた。

番組中で中川光太郎氏（当時21歳、川崎造船）が「応援歌の旗は真紅の組合旗でね。これが行進の中につぎつぎと増えていって」と淡々と語るとき、当時の中川青年の喜びを想像できた。松本昇氏（当時19歳、三菱電機）は、「四斗樽に水を張ってふるまったり、酒の四斗樽のかがみを割ってくれた店もありましたよ。私は執行委員で伝令だったから全長2里半（注＊9・9km）のデモの後尾までか

けていきました。終わったときはもうクタクタで歩く元気もなく、金もないので市電のうしろにタダ乗りして兵庫まで帰りました。」と回顧して、私の度肝を抜いた。

警察と軍隊の抜剣介入で「惨敗」したこの争議だが、画面と談話でふつふつと感じる時代のエネルギーは、その後、いくばくも経ずに労働者解放の正しい道程を発見し、結集されていく必然を感じさせた。

時代背景や労働者の怒りの真因をいっそう鋭くえぐっていったとき、この番組は現代へのアプローチとして光彩を放ったはずである。」

待ち望まれた『民主主義の日本めざして―「川崎・三菱大争議」100年』パンフレット

喜田照和

「兵庫民報」連載の終了後、新たに製本され良かった。周囲の方も同じ思いだったようで、パンフを見せると、その場で３名の方が購入。地元神戸の話なのに、今まで紹介されてこなかったので当然といえば当然だったと思います。

６月に「地域革新懇」の講演会場に知人へ紹介しようと10冊持参しました。開幕前にあという間に５分ですべて売り切れに！

知人が周りの人に声を掛けてくれて、中には先方から呼びかけてくれて購入してくれる方もいました。まだまだ普及できそうです。前の職場の現役世代には、まだ声を掛けていませんので、新たに数十冊取り寄せて普及していきます。

この貴重なＤＶＤは、どこから入手したのか

※78年5月のＮＨＫの放送時、ビデオデッキも一般家庭には広く出回っていません。ＮＨＫ自体が、放送を録画することも一般的でなく、現在も、ＮＨＫは、この年までの録画が少なく、「もし録画をされている方あれば、ご連絡をください」と呼びかけています。現在のＮＨＫのアーカイブスも、この番組はありません。当時、特別に仕入れた録画装置を使用して、ご家庭で、収録された方が、ある文化人の集う場所で披露され、田中が、「神戸詩人事件」の関係で知り合い、このＮＨＫ番組の録画を、収録したものです。

田中隆夫記

お互いに認め合うこと

「ジェンダー平等」何だか難しい、と思ったので、私の結婚式（神式でした）でのエピソードから。

誓いの言葉「夫、水元△△（夫の名）」「（…？？）つ、妻、○○（旧姓）サユミ」打ち合わせで式場の人からしっかり内容を聞いてなかったので、旧姓で誓ってました。あとで、夫から「イヤだ～！って逃げてくかと思ったわ（笑）」って言われました。逃げはしないけど、夫の姓を名乗ることに私自身の心が抵抗してたのかも。

しかし未だに日本は選択的夫婦別姓が実現できない。「夫婦別姓で家族の絆が弱まる」「通称として旧姓を認めれば足りる」「夫婦同姓が日本古来の伝統だ」反対派はそう言うが、どうだろう？ジェンダー平等に至るまでには、選択的夫婦別姓制度の実現が必要かと思う。

残りの人生「自分らしく」生きていくために「こうあるべき」を見直して、初心を忘れずに夫と仲良くやっていけるかな（笑）？お互い認め合いながらね。

水元サユミ

102歳／貫名初子
平和への思い引き継いで

田中隆夫

5月2日102歳で亡くなられた貫名初子さん、２００９年同盟神戸中央支部で「エスペラント語とその運動」をテーマにお話をされています。貫名さんを偲んで、お話を再現します。

エスペラントとは、「希望する者」

ポーランドの医師ザメンホフは、国際語を採用することで、「民族が理解しあい世界平和が実現することを願ってる」として、一八八七年にエスペラント運動を始め、社会の矛盾を解決しようとする人々や社会主義者と結びつく。第一次世界大戦前から労働者エスペラント運動が始まり、日本でも早くからエスペラントに注目したのは堺利彦・大杉栄・片山潜。

結婚相手の貫名美隆さんの活動

１９４２年結婚相手の美隆は熱烈なエスペランチストの英米文学の教師。夫婦の会話はエス語ですると一方的に言われ、貫名さんは困惑、でも懸命にエス語を勉強。

戦時中、横文字は敵性語、美隆の本棚から玄関まで書籍でいっぱい。特高警察が、家まで見回りに来て、土足で上がり込み、初子さんは怒って怒鳴ったと言います。

１９３８年国語運動・ローマ字運動・エスペラント運動の活動家数十名が全国で検挙の「左翼言語運動事件」。神戸の貫名美隆も取り調べを受け、以降日本のエスペラント運動は消えます。美隆は、戦時で英米文学の仕事もなくなり、徴用されインドシナに行き音信不通なります。家は空襲で焼かれ、戦後夫が帰郷しても家がなく転々と借家住まい。神戸外大教授時代、灘区の今のお家に移り、エスペランチストが内外から訪問、毎年1月3日には30名の方が集合された。関西エスペラント連盟の副会長でした。

小林多喜二「１９２８・３・１５」エスエペラント語訳刊行

美隆さん死後遺稿から発見した訳稿を１９８７年に「エスペラント百年記念で刊行、平和の願いを継続と１９９０年８月ベルリンの壁崩壊の時には、東欧諸国を回り広島・長崎署名を街頭で集める活動も展開。遺志を継いで、ＡＡＬＡ連帯委員会やエスペラント平和の会の活動を最後まで続けられました。

ジェンダー
私の思い――リレートーク　第４回

賀川ハルと窪田愛子・弘道②

日本最初の女性演説会 16

朝倉はじめ

窪田家の資料は、まとめて発見できた。「日教組」機関誌掲載の弘道の手記と対談には、祖父、母方は国鉄機関士、父方は逓信工夫、父は機械工と3代にわたる労働者の家という生家と窪田の生涯が、新興教育運動の弾圧を軸に詳しく書かれていた。

婦人参政権演説会へ！賀川ハルを慕う窪田弘道の母

『母方の父が神戸の運転手の時、事故で失明、失意の中18歳で嫁に、父は関東で機械工に、弘道が小学生の途中、1922年1月神戸の祖母の家に転居する。母は、神戸の娘の時からキリスト教徒に。弘道はキリスト教の家庭で育つ。母は転居の際、賀川ハル宛の紹介状をもらってきた。

祖母の家の近所の長田区5番町の金楽寺の裏に新築の8軒長屋に転居。長田小学校へ通う。4番町にイエス団診療所ができて馬島倜（ゆたか）医師に診てもらう。長屋の路地をでた角の2階に神戸消費組合の出張所ができた。家の台所に値段表があり「くみあい」といえば消費組合の事であった。

1年前の川崎・三菱大争議の時、大八車でつけ豆の行商をする行動隊に入り、売れに売れて職工をやめて豆屋になろうかと話した叔父が長屋に転宅してきた。指導者の青柿善一郎さんには母が、貧乏人の切実な産児制限の運動で相談にいった。争議の時、青柿さんは、軍隊出動の中で「師団長は天皇の命令でなるのだが、私は3万人の労働者の命令で選ばれているのだ。」と対等に渡り合った話が有名であった。

賀川ハルと連絡がついた母は、婦人参政権の演説を聞きに行くので、弘道はよく留守番をした。山手6丁目のYMCAキリスト教青年会館であった。参議院の喫茶店で市川房江先生とその話をしたら、1922年には、何回も神戸に行きましたよと懐かしがっておられた。』（要約）

1970年代、全日自労（全日本自由労働組合）兵庫県支部委員長時代の窪田弘道

成長する弘道への思想的影響

弘道は、御影師範へ入りペスタロッチの貧児教育を学び、キリスト者としての母方のハルたち関係者、診療所を開いたハルの妹芝八重医師、日本福音ルーテル教会・番町教会の老牧師青山彦太郎らの思想的影響をあげている。貧乏を世の中の矛盾として、なくすために社会的闘いをしていく社会的キリスト教への目覚めであった。

非公然の組織・社会的キリスト教の戦闘的グループに接近していく。

絵手紙　小坂ますみ